

第 35 回 金沢大学考古学大会

6月6日(土)、金沢大学角間キャンパス地域連携センターにて第35回金沢大学考古学大会が開催されました。講演内容および出席者は以下のとおりであった。

講演: 渡辺 芳郎 (鹿児島大学法文学部)、金田 明大 (独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所)「鹿児島県日置市美山苗代川窯跡群の調査―分布調査・測量調査・地下探査の成果から―」、前田 清彦 (鯖江市教育委員会)「方形周溝墓の造墓計画―群構成の歴史的意義―」、原田 幹 (愛知県教育委員会)「良渚文化「耘田器」の使用痕と機能」、野上 建紀 (有田町歴史民俗資料館)「チョコレートカップの変遷と流通」、中野 雄二 (波佐見町教育委員会)「近世波佐見窯業の展開」、西野 範子 (東南アジア埋蔵文化財保護基金)「ハノイ・タンロン遺跡の層位」、内堀 信雄 (岐阜市教育委員会社会教育課)「岐阜城の空間認知―文献・絵図・考古資料を用いて―」、伊藤 伸幸 (名古屋大学文学部)「中米のタスマル遺跡発掘調査」

出席者: 内堀信雄、内堀信雄、渡辺芳郎、前田清彦、



野上建紀、北島健雄、櫻井秀雄、伊藤伸幸、中野雄二、原田幹、中本寛、西野範子、菅野美香子、岩井浩介、相羽重徳、松永篤知、竹部裕介、細山いづみ (以上、卒業生および修了生)、佐々木達夫、高濱秀、中村慎一 (以上、金沢大学教授)、小川光彦、ナンチーチーカイ、酒井中、大谷育恵、市川久美子、魚水環、亀井健太、坂本圭佑、篁源章、佐藤勝也、島崎麻美、大門和也、長谷川仁嗣、平野美沙希、松下裕子、三谷拓也、山田美寿、矢嶋竜太、矢代夏希、畠山隼輔、塩澤隆慈、渡邊玲、松井広信、田崎稔也 (以上、在学生)

『金大考古』投稿規程

1. 原稿は e-mail で編集委員に送る。
2. 校正は編集委員及び執筆者が校了を同意するまで行う。
3. 査読は編集委員2名を以って行なう。
4. 原稿の著作権は著者に属す。ただし、電子データ等の公開権利は金沢大学及び金沢大学考古学研究室が有する。

『金大考古』執筆要項

1. 原稿の書式
文字版面は、A4 版横書きで、24 字×42 行の横2段組。余白は天30ミリ地27ミリ左22ミリ右22ミリ。ヘッダーには「金大考古 号数、発行年 筆者・論文名・ページ数」、フッターにはページ番号をつける。
2. 書体
論文タイトル・著者名・見出しはMSゴシック、本文テキストはMS明朝を使用する(和文)。欧文の場合、Times New Romanを使用する。
3. 原稿・図版類の入稿形態について
原稿は、テキスト形式を基本とし、図版類はJPEG形式など汎用性のある形式でのデータ提出とする。その他のデータ形式での入稿は、編集委員と協議する。
4. 使用言語は日本語、英語、中国語を基本とする。
5. 文章表記について
度量衡単位はcm、kg、m³等のように記号を、数量は算用数字を使用する。
6. 註・参考文献について
註は通し番号を付し、文章末尾に一括して掲載する。本文中の参考文献は執筆者と刊行年を明記し、引用箇所が明

確な場合はそのページ・行数を参考文献とともに記入する。

7. 挿図・写真図版について

- a. 挿図はデジタルトレースまたは手書きトレース済みの完全版下とし、縮尺・写植・見出しなどの指示を入れる(写真図版も同様)。
- b. 編集作業を潤滑におこなうため、割付見本を作製すること。
- c. 挿図および表は典拠を明記する。但し執筆者自身の原図・表の場合には断る必要はない。

8. e-mail アドレスを論文末尾に掲載

『金大考古』編集委員

小川光彦 (金沢大学大学院生)、垣内光次郎 (石川県埋蔵文化財センター)、勝俣竜哉 (御殿場市教育委員会)、小松隆史 (井戸尻考古館)、酒井 中 (金沢大学大学院生)、桜井秀雄 (長野県埋蔵文化財センター)、佐々木達夫 (金沢大学教授)、庄田知充 (金沢市埋蔵文化財センター)、高濱 秀 (金沢大学教授)、野上建紀 (有田町歴史民俗資料館)、前田清彦 (鯖江市教育委員会)、八木 聡 (金沢大学大学院生) 渡辺芳郎 (鹿児島大学)

金大考古第 64 号

金沢大学人文学類歴史文化学コース
大学院人間社会環境研究科
考古学研究室
920-1192 金沢市角間町
kanazawa-u_kougogaku@live.jp
2009 年 6 月 30 日